

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成26年7月号

編 集  
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15  
一般社団法人 日本病院会 通信教育部  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日 毎月1日

定 価 1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替 00190-5-396045

名 義 一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 診療情報管理士を診療情報管理士足らしめているもの

鵜飼 伸好

社会医療法人名古屋記念財団 名古屋記念病院 医事課 課長  
愛知会場 専門課程(医療情報学) 講師

名古屋会場で医療情報学を担当していますが、その講義の冒頭で、診療情報管理士を診療情報管理士足らしめているのは、医療統計学と医療情報学なのだというを時々述べています。これは、歴史的な経緯も含めての話で、今をさかのぼる事18年前(平成9年)に、診療録管理士から診療情報管理士に名称を変更するにあたって、追加で履修を求めて追試を行って資格を担保したのが、何を隠そう、この医療統計学と医療情報学だったので。その3年後の平成12年には、診療録管理体制加算が新設されています。

物の管理から情報の管理へと掛け声とともに、診療記録などの医療情報の電子化やDPCなどの流れの中で、新たな医療の担い手として医療事務とは異なった事務職としての可能性を模索して現在に至ります。

残念ながら医療統計学については、苦手意識を持たれる方も少なくありませんし、医療情報学についても、目の前のスマートフォンは弄ることはできても、いざ電子化された患者さんの医療情報を目の前にするとどう取り扱ってよいか対応に窮したり戸惑う場面も少なくないのではないかと思います。

先の診療録管理体制加算も14年の時を経て、この春の診療報酬改定で上位の基準が新設されたのは皆さんもご存じのとおりです。これまで急性期病院だけが対象とされていたDPCの影響評価調査に準じた「データ提出加算」も、すべての入院基本料に対象が広がられました。亜急性や回復期、慢性期の病院に勤めている診療情報管理士の方々にとってももしかしたらその真価を問われる時が到来したのかもしれません。データ提出加算の実務の中には、医学的な知識やコーディングの技量はもちろんのこと、医療情報学の中で学んだ事柄も沢山出てきますし、統計的なデータ処理の実務も要求されることがあるでしょう。

また、新設の診療録管理体制加算の従事者は、委託や派遣ではなく、常勤としての雇用が明記されることとなり、安定した地位の確保と職務への期待が高まることとなりました。しかしながら喜んでばかりはられないのではないかと思います。

診療情報管理士の資格を持っているだけで、データ提出加算などへの対応はできて当たり前、と言われた時にその期待に応えられなければ、診療情報管理士である意味はなさなくなると言われてしまうかもしれません。その意味では、責任の重大さをすでに資格を取った人たちがばかりでなく、現に通教生である皆さんにも認識してほしいと思います。今はまだ、診療録管理体制加算の従事者は「診療記録管理者」となっていますが、これからの皆さんの頑張りや、将来、国家資格となった「診療情報管理士」と明記されるようになってほしいものです。

